



狩野派の画人たち—原六郎コレクションの名品

【前期】2019年3月9日[土]—5月8日[水] 【後期】5月10日[金]—6月30日[日]

会場 ハラ ミュージアム アーク 特別展示室 観海庵



室町から江戸まで、ほぼ4世紀にわたって画壇に君臨した狩野派は、近世日本美術史を代表する画家集団で、その作品は原六郎コレクションにも多数含まれています。

ここでは「三井寺旧日光院客殿障壁画」と「狩野派寄合書」を中心に、狩野派の画人たちによる絵画表現の魅力をご堪能ください。

【図版1】狩野永徳「虎図」（三井寺旧日光院客殿障壁画）一幅 桃山時代[前期展示]

【図版1】狩野永徳「虎図」（三井寺旧日光院客殿障壁画）一幅 桃山時代 [前期展示]

風をはらむ竹林の下に憩う虎の親子の姿。親は眠る子を守るかのような面持ちとしなやかな姿態で捉えられています。虎は異国の霊獣で、富や地位、子孫繁栄の寓意とされ、吉祥的な意味合いを持って襖などに描かれることも多かった動物です。この作品も、元は客殿を飾る壁貼付絵として描かれたものでした。

「虎図」の筆者とされる狩野永徳（かのうえいとく、1543-90）は、壮麗な桃山時代の絵画様式を確立しました。現存する作品は戦火に焼けて乏しく、本作は画家を語る資料としても存在価値の高いものと位置づけられています。



【図版2】狩野派「花鳥図」（三井寺旧日光院客殿障壁画）四幅 桃山-江戸時代 [前期展示]

【図版2】狩野派「花鳥図」（三井寺旧日光院客殿障壁画）四幅 桃山-江戸時代 [前期展示]

水際で遊ぶ鴨、岩にとまるセキレイ、大きな松の枝にとまる山鳩のつがいなどが柔らかな筆致で描かれています。水鳥は豊かさと幸福を象徴し、つがい夫婦の和合と子孫繁栄を、また、鳩は平安を象徴します。花鳥図は、近しい関係の人物と会う部屋に描かれる例が多く見られます。



HARA MUSEUM ARC



【図版 3】狩野永徳「虎図」(三井寺旧日光院客殿障壁画)四幅 桃山時代 [後期展示]



(左)【図版 4】狩野宗徳「楊貴妃双陸図」(狩野派寄合書のうち)一幅
江戸時代 [前期展示]
(右)【図版 5】狩野探幽「太公望釣浜図」(狩野派寄合書のうち)一幅
江戸時代 [後期展示]

■三井寺旧日光院客殿障壁画とは…

滋賀県・三井寺(園城寺)(みいでら、おんじょうじ)の塔頭の一つ、日光院客殿をかつて飾った襖絵。これらは明治 25 年(1892)、原六郎が日光院客殿を建物ごと買い取り、品川御殿山(現東京品川区北品川)の自邸に移築したもので、現在、襖絵は掛軸と屏風に改装されています。
なお、日光院客殿は、護国寺(東京都文京区)に月光院として移築保存、重要文化財に指定されています。

■狩野派寄合書とは…

若き日の狩野探幽やその父孝信をはじめとして、桃山時代末・江戸時代前期に狩野派の中核として活躍した画人十人の寄合書十二図です。当初は六曲一双の押絵貼屏風であったものを、保存上あるいは鑑賞上の理由から、現在では掛軸十二幅に改装されています。
画題は「楊貴妃双陸図」、「吳王西施図」、「太公望釣浜図」、「李白観瀑図」など、いわゆる中国故事人物図と呼ぶべきもので、描かれた図にも、儒教、仏教、道教など、多岐にわたる意味内容がそれぞれ表現され、狩野派画家の官学派的性格をよく示しているといえます。

■古美術 出品作品

【全期】円山応挙「淀川両岸図巻 下図」江戸時代／「近江八景蒔絵硯箱」江戸時代ほか

【前期】狩野永徳「虎図」桃山時代*／狩野派「花鳥図」桃山時代*

狩野宗徳「楊貴妃双陸図」**／狩野孝信「黄石公張良図」**／狩野左衛門「吳王西施図」**

狩野甚丞「咸陽宮図」**／狩野隼人「通玄先生図」** 桃山-江戸時代

【後期】狩野永徳「虎図」桃山時代*／狩野派「花鳥図屏風」* 桃山時代

狩野探幽「李白観瀑図」**／狩野探幽「太公望釣浜図」**

*…三井寺旧日光院客殿障壁画
*…*狩野派寄合書より

■現代美術 出品作家

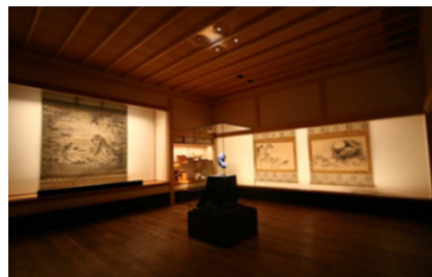
アーロン フィンク／今井俊満／倉俣史朗／ディヴィッド スミス／名和浩平／ロバート メイプルソープ など



HARA MUSEUM ARC

■特別展示室 観海庵（かんかいあん）とは

1988年の開館以来、世界の現代美術を紹介してきたハラ ミュージアム アークは、2008年、創立20周年を記念して、特別展示室「観海庵」を増設、従来の現代美術館としての活動に加え、当館ならではの視点で古美術を紹介しています。「観海庵」を手がけたのは、ハラ ミュージアム アークを設計した建築家 磯崎 新。書院造を参照して設計された空間での展示を通し、伝統と現代の交差する新しい体験の場を提案しています。



【図版7】 特別展示室 観海庵内

【開催概要】

展覧会名 「狩野派の画人たち—原六郎コレクションの名品」

会 期 【前期】2019年3月9日[土]—5月8日[水]

【後期】5月10日[金]—6月30日[日]

会 場 ハラミュージアム アーク 特別展示室 観海庵

群馬県渋川市金井 2855-1 Tel:0279-24-6585/Fax:0279-24-0449

休 館 日 木曜（3月21日は開館）

入 館 料 一般 1,100 円、大高生 700 円、小中生 500 円

※「Yの冒険 一原美術館コレクション」展（会場 現代美術ギャラリー）も併せてご覧いただけます。

■原美術館メンバーシップ会員無料、70歳以上半額、20名様以上団体割引。学校団体は特別料金規定あり。

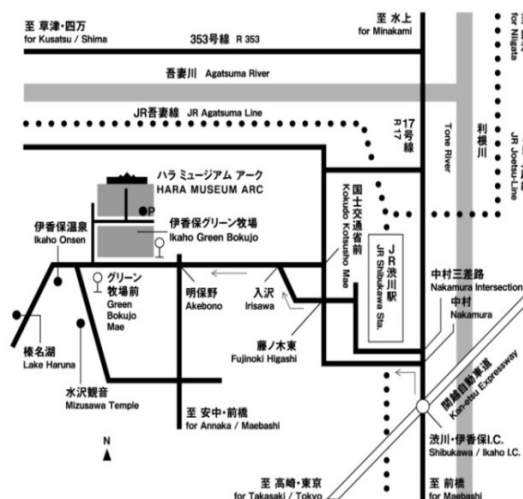
■伊香保グリーン牧場とのセット券

（一般 1,800 円、大高生 1,500 円、中学生 1,400 円、小学生 800 円）※GW 期間は除く

■群馬県内の小中学生は学期中の土曜の入館無料。ぐーちょきパスポートのご提示により5名様まで入館料各200円割引。

交通案内 JR 上越線「渋川駅」より(上越・北陸新幹線利用の場合は「高崎駅」で上越線に乗り換え)伊香保温泉行きバスにて約15分、「グリーン牧場前」下車、徒歩7分。
「渋川駅」よりタクシーで約10分。
車の場合、関越自動車道「渋川・伊香保 I.C.」より8km、約15分。
無料駐車場あり。

（館内・駐車場はバリアフリーです。）



【WEB】 <http://www.haramuseum.or.jp>

【twitter】 <http://twitter.com/HaraMuseumARC>

取材・図版提供などのお問い合わせ先：ハラ ミュージアム アーク 広報 山川、柳田（担当学芸員 安田、青野）

Tel 0279-24-6585 Fax 0279-24-0449 E-mail press@haramuseum.or.jp